

想定した経営類型 びわ複合経営(びわ主体、露地動噴防除体系)

1. 技術体系の特徴

経営類型	家族労働力	品目・栽培型及び規模		経営・技術の特徴
びわ+ かんきつ  ハウス40a 露地160a (動噴防除体系)	人		a	1.ハウスびわと露地びわに、露地かんきつを組み合わせた果樹専業経営 2.ハウスびわの品種は「長崎早生」、「はるたより」、簡易ハウスは「なつたより」、露地栽培は「なつたより」と「茂木」が主体 4.みかんは堆肥ペレット入配合肥料、中晩柑は一発肥料を使用
	2.5	ハウスびわ一般出荷型 ハウスびわ「はるたより」 簡易ハウスびわ「なつたより」 露地びわ「なつたより」 露地びわ 早生温州動噴防除 不知火動噴防除 合計	20 10 10 30 30 60 40 200	
		経営耕地面積	樹園地 200a	
経営目標	1 農業総収入	28,642 千円	4 1日当たり農業所得	12,045 円
	2 農業経営費	21,360 千円	5 1人当たり年間労働時間	1,935 時間
	3 農業所得	7,281 千円		

2. 資本装備と減価償却費

	種類・規模	数量	型式・構造・能力	所有割合	取得価格	耐用年数	年間償却額
建物・施設	加温ハウス(連棟標準型AP)	3	M6.0×4R×42.5m	1	千円 29,070	14	千円 1,038
	簡易ハウス	1	M6.0×4R×42.5m	1	5,279	14	189
	作業収納舎66㎡	1	軽量鉄骨	1	6,238	24	260
	貯蔵庫33㎡	1	コンクリートブロック	1	3,119	24	130
	園内道	10	1.0m幅、部分的に舗装	1	1,305	15	44
	重油タンク	3	1.9kL	1	1,436	7	103
	防油堤	3		1	1,034	25	41
	計					47,480	
農機具	トラック(普通)	1	2t積み	1	3,500	5	350
	トラック(軽)	1	0.35t積み、4WD	1	1,500	4	188
	小型運搬車	1	3kw、リフトダンプ付き	1	311	4	39
	動噴	1	22L/min	1	154	7	11
	刈払い機	3	排気量20.6cc	1	102	7	7
	選果機	1	ドラム式	1	349	7	25
	びわ選別機	1	重量式	1	100	7	7
	せん定枝粉碎機	1	6.3kw、1.7m³/h	1	602	7	43
	換気扇	3		1	1,868	7	133
	循環扇	3		1	882	7	63
	暖房機	3	75,000kcal(30タイプ)多段サーモ含む	1	4,902	7	350
計					14,271		1,216

3-1. 技術体系(ハウスびわ: 一般出荷型)

(10a当たり人、時間)

作業の種類	栽培技術		作業体系				使用資材	技術の重要事項
	技術内容	作業時間	使用機械器具	組み作業人員	実作業時間	延べ作業時間		
間伐 せん定	間伐 整枝 せん定 枝誘引	5月	トラック	1	30	30		<ul style="list-style-type: none"> <li>・盃状形または、二段盃状形の低樹高仕立てとする。</li> <li>・密植園では縮間伐を行い、独立樹とする。</li> <li>・立ち枝はできるだけ誘引し、低樹高化と空間の有効利用を図る。</li> </ul>
土壌改良	堆肥、 土壌改良資材 施用	7/上	小型運搬車 トラック	2	5.5	11	堆肥 2t 苦土入りカキ ガラ石灰 100kg	<ul style="list-style-type: none"> <li>・石灰質資材は土壌pH5.5~6.5を目標に施用する。</li> <li>・2~3年に1回を目標に樹間を部分的に軽く中耕する。</li> </ul>
草生管理	草刈り	3月 4月 9月	刈払機	1	6	6	わら 1ロール	<ul style="list-style-type: none"> <li>・除草剤の使用は夏草雑草発生期にとどめ、雑草草生による地力向上に努める。</li> <li>・使用薬剤、使用方法は県雑草防除基準による。</li> </ul>
	除草剤 散布	7月	動噴	2	2	4	除草剤	
施肥	基肥 追肥 礼肥	8/下 10/中 4/下	小型運搬車	1	6	6	配合肥料 (N:10%)240kg	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施肥量は、土壌の種類、樹勢、収量等によって調整する。</li> <li>・施肥後、かん水する。</li> <li>・年間の窒素施肥割合 基肥 40% 追肥 20% 礼肥 40%</li> </ul>
防除	薬剤散布	1~12月	動噴	2	15.5	31	1回の散布量 300~500L	<ul style="list-style-type: none"> <li>・無被覆期間中の防除を徹底し、病害虫の密度を低くする。</li> <li>・ハウス内では薬害が発生しやすいので、薬剤の選択、散布時の条件などに十分注意する。農薬の安全使用基準を厳守する。</li> </ul>
摘房 摘らい	摘房	10/上 ~ 10/下		2	15	30		<ul style="list-style-type: none"> <li>・着房率60%とする。</li> <li>・花房進度4~5の頃に、強摘らいを実施する。</li> </ul>
	摘らい	10/下 ~ 11/上						
摘果 袋かけ	摘果	1/上 ~ 2/上		2	60	120	果実袋 10,000枚	<ul style="list-style-type: none"> <li>・摘果は果実径1.0~1.5cm程度で実施する。</li> <li>・種子数の少ない奇形果、傷果を除去し、肥大が早く健全で揃った果実を、果房当たり3果残す。</li> <li>・袋かけ前に必ず炭そ病、灰斑病対策の薬剤散布を行う。</li> <li>・障害果防止のため樹冠上部は遮光率の高い袋を使用する。特に、紫斑症が発生しやすい品種は内黒袋を用いる。</li> </ul>
	袋かけ							

3-1. 技術体系(ハウスびわ:一般出荷型)

(10a当たり人、時間)

作業の種類	栽培技術		作業体系				使用資材	技術の重要事項
	技術内容	作業時間	使用機械器具	組み作業人員	実作業時間	延べ作業時間		
収穫出荷	収穫選別箱詰め出荷	3/下 ~ 4/下	トラック 運搬車 重量選別機	2	88	176	収穫用かご コンテナ 出荷用箱	・早採りに注意し、適熟に達したのものから粒採りで収穫する。その後房採りとする。 ・果実が傷まないよう、毛じが落ちないように、取り扱いには細心の注意を払う。
新梢管理	芽かき誘引	5/中 ~ 7/下 9/上 ~ 9/中		1	35	35		・芽かきは、新梢の長さが10cmの時にがんしゅ病予防のためハサミで除去する。 ・基本的に中心枝、果こん枝のみとし、副梢は除去する。 ・こまめに新梢誘引を行い、花芽分化を促す。
	新梢誘引	6~ 7月						
フィルム等被覆管理	外フィルム被覆	11/上		6	8	48	外フィルム(0.1mm): 7.0×45m 4本 サイドフィルム(0.1mm): 2.7×42m 4本 内カーテン(0.075mm): 7.0×42m 8本 3年使用 保温資材 2×108m 寒冷紗 1.8×108m 5年間使用	・開花直前の時期(10月下旬~11月上旬)からハウス天井部のみを被覆して降雨を回避し、腐敗果の発生を軽減する。 ・開花期に天井部を被覆した場合に、ハウス側面を開放しても高温により結果率の低下が懸念される園地では、谷、妻面の開放など降温対策を併せて実施する。 ・天井ビニールは7月まで被覆し、園内土壌の過湿を防ぐ。 ・夏季の高温抑制対策と花芽促進・充実を図るため、寒冷紗を被覆する。
	内カーテン被覆	11/中		2	8	16		
	内カーテン除去	4/上		2	3	6		
	外フィルム巻上げ	7/中		2	5	10		
	寒冷紗被覆・除去	8/上 9/中		2	5	10		
温度管理	保温加温換気	11/中 ~ 4/下	暖房機 換気扇 谷、サイド換気装置	1	42	42	A重油3.2kl	・目標出荷時期に合わせた温度管理を行う。  夜温 昼温℃ 加温~2/下 10℃ 20℃ 3/上~3/下 12℃ 22℃ 4/上以降 14℃ 23℃ ・特に、収穫前の日中の高温に注意する。 ・保温性のある資材の多重被覆により重油使用量を削減し低コスト化を図る。

3-1. 技術体系(ハウスびわ: 一般出荷型)

(10a当たり人、時間)

作業の種類	栽培技術		作業体系				使用資材	技術の重要事項
	技術内容	作業時間	使用機械器具	組み作業人員	実作業時間	延べ作業時間		
水管理	かん水	被覆期間中	かん水施設	1	18	18		被覆前後:十分に灌水する 被覆~1/中(開花~結実期) :5~7日間隔で5t程度 1/下~3/上(果実肥大期) :5~7日間隔で10~15t 3/中~4/下(成熟期~収穫期) :3~5日間隔で5~7t 収穫後 :十分に灌水する 5~7月(花芽分化促進) :10日間隔で10~20t ・特に生育期間中を通じての過湿、過乾燥に注意する。
その他	作業道排水溝防風垣風対策他	1~12月		1	16	16		・圃場排水に努める。
計						615		

3-2. 技術体系(ハウスびわ:「はるたより」)

(10a当たり人、時間)

作業の種類	栽培技術		作業体系				使用資材	技術の重要事項
	技術内容	作業時間	使用機械器具	組み作業人員	実作業時間	延べ作業時間		
間伐 せん定	間伐 整枝 せん定 枝誘引	5月	トラック	1	30	30		<ul style="list-style-type: none"> <li>・盃状形または、二段盃状形の低樹高仕立てとする。</li> <li>・密植園では縮間伐を行い、独立樹とする。</li> <li>・立ち枝はできるだけ誘引し、低樹高化と空間の有効利用を図る。</li> </ul>
土壌改良	堆肥、 土壌改良資材 施用	7/上	小型運搬車 トラック	2	5.5	11	堆肥 2t 苦土入りカキガラ石灰 100kg	<ul style="list-style-type: none"> <li>・石灰質資材は土壌pH5.5～6.5を目標に施用する。</li> <li>・2～3年に1回を目標に樹間を部分的に軽く中耕する。</li> </ul>
草生管理	草刈り	3月 4月 9月	刈払機	1	6	6	わら 1ロール	<ul style="list-style-type: none"> <li>・除草剤の使用は夏草雑草発生期にとどめ、雑草草生による地力向上に努める。</li> <li>・使用薬剤、使用方法は県雑草防除基準による。</li> </ul>
	除草剤 散布	7月	動噴	2	2	4	除草剤	
施肥	基肥	8/下	小型運搬車	1	6	6	配合肥料 (N:10%)240kg	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施肥量は、土壌の種類、樹勢、収量等によって調整する。</li> <li>・施肥後、かん水する。</li> <li>・年間の窒素施肥割合 基肥 40% 追肥 20% 礼肥 40%</li> </ul>
	追肥	10/中						
	礼肥	4/下						
防除	薬剤散布	1～12月	動噴	2	15.5	31	1回の散布量 300～500L	<ul style="list-style-type: none"> <li>・無被覆期間中の防除を徹底し、病害虫の密度を低くする。</li> <li>・ハウス内では薬害が発生しやすいので、薬剤の選択、散布時の条件などに十分注意する。農薬の安全使用基準を厳守する。</li> </ul>
摘房 摘らい	摘房	10/上 ～ 10/下		2	15	30		<ul style="list-style-type: none"> <li>・着房率60%とする。</li> <li>・花房進度4～5の頃に、強摘らいを実施する。</li> </ul>
	摘らい	10/下 ～ 11/上						
摘果 袋かけ	摘果	1/上 ～ 2/上		2	60	120	果実袋 10,000枚	<ul style="list-style-type: none"> <li>・摘果は果実径1.0～1.5cm程度で実施する。</li> <li>・種子数の少ない奇形果、傷果を除去し、肥大が早く健全で揃った果実を、果房当たり3果残す。</li> <li>・袋かけ前に必ず炭そ病、灰斑病対策の薬剤散布を行う。</li> </ul>
	袋かけ							

3-2. 技術体系(ハウスびわ:「はるたより」)

(10a当たり人、時間)

作業の種類	栽培技術		作業体系				使用資材	技術の重要事項
	技術内容	作業時間	使用機械器具	組み作業人員	実作業時間	延べ作業時間		
収穫出荷	収穫選別箱詰め出荷	4/上 ~ 4/下	トラック 運搬車 重量選別機	2	88	176	収穫用かご コンテナ 出荷用箱	・早採りに注意し、適熟に達したもののから粒採りで収穫する。その後房採りとする。 ・果実が傷まないよう、毛じが落ちないように、取り扱いには細心の注意を払う。
新梢管理	芽かき誘引	5/中 ~ 7/下 9/上 ~ 9/中		1	35	35		・芽かきは、がんしゅ病予防のため新梢の長さが10cmの時にハサミで除去する。 ・基本的に中心枝、果こん枝のみとし、副梢は除去する。 ・こまめに新梢誘引を行い、花芽分化を促す。
	新梢誘引	6~ 7月						
フィルム等被覆管理	外フィルム被覆	11/上		6	8	48	外フィルム(0.1mm): 7.0×45m 4本 サイトフィルム(0.1mm): 2.7×42m 4本 内カーテン(0.075mm): 7.0×42m 8本 3年使用 保温資材 2×108m 寒冷紗 1.8×108m 5年間使用	・開花直前の時期(10月下旬~11月上旬)からハウス天井部のみを被覆して降雨を回避し、腐敗果の発生を軽減する。 ・開花期に天井部を被覆した場合に、ハウス側面を開放しても高温により結果率の低下が懸念される園地では、谷、妻面の開放など降温対策を併せて実施する。 ・天井ビニールは7月まで被覆し、園内土壌の過湿を防ぐ。 ・夏季の高温抑制対策と花芽促進・充実を図るため、寒冷紗を被覆する。
	内カーテン被覆	11/中		2	8	16		
	内カーテン除去	4/上		2	3	6		
	外フィルム巻上げ	7/中		2	5	10		
	寒冷紗被覆・除去	8/上 9/中		2	5	10		
温度管理	保温加温換気	11/中 ~ 4/下	暖房機 換気扇 谷、サイド換気装置	1	42	42	A重油3.2kl	・目標出荷時期に合わせた温度管理を行う。  夜温 昼温℃ 加温~2/下 10℃ 20℃ 3/上~3/下 12℃ 22℃ 4/上以降 14℃ 23℃ ・特に、収穫前の日中の高温に注意する。 ・保温性のある資材の多重被覆により重油使用量を削減し低コスト化を図る。

3-2. 技術体系(ハウスびわ:「はるたより」)

(10a当たり人、時間)

作業の種類	栽培技術		作業体系				使用資材	技術の重要事項
	技術内容	作業時間	使用機械器具	組み作業人員	実作業時間	延べ作業時間		
水管理	かん水	被覆期間中	かん水施設	1	18	18		被覆前後:十分に灌水する 被覆～1/中(開花～結実期) :5～7日間隔で5t程度 1/下～3/中(果実肥大期) :5～7日間隔で10～15t 3/下～4/下(成熟期～収穫期) :3～5日間隔で5～7t 収穫後 :十分に灌水する 5～7月(花芽分化促進) :10日間隔で10～20t ・特に生育期間中を通じての過湿、過乾燥に注意する。
その他	作業道排水溝防風垣風対策他	1～12月		1	16	16		・圃場排水に努める。
計						615		

3-3. 技術体系(簡易ハウス「なつたより」)

:表中の作業項目以外は、露地びわ「なつたより」に準ずる。(531~532ページ参照)

(10a当たり人、時間)

作業の種類	栽培技術		作業体系				使用資材	技術の重要事項
	技術内容	作業時間	使用機械器具	組み作業人員	実作業時間	延べ作業時間		
摘果袋かけ	摘果袋かけ	2/下 ~ 3/上		1	100	100	果実袋 10,000枚	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1房当り3果に摘果し、3L以上の大玉生産を目指す。</li> <li>・渋み果が疑われる早花果や細長い果実などの奇形果は、必ず摘果して除去する。</li> <li>・袋かけ前に必ず炭そ病、灰斑病対策の薬剤散布を行う。</li> </ul>
収穫出荷	収穫選別箱詰め出荷	4/下 ~ 5/中	トラック 運搬車 重量選別機	2	41	82	収穫用かご コンテナ  ※出荷調整は 共同選果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「茂木」より果皮が黄色っぽく酸切れが早いので、色合いを見ながら試食して収穫適期を判断する。適期を過ぎると、そばかすや裂果を生じやすい。</li> <li>・果肉がやわらかく傷みやすいので、収穫、運搬、選別時に衝撃を与えず、積み重ねないよう取り扱いに注意する。</li> </ul>
フィルム等被覆管理	外フィルム被覆	11/上		6	8	48	外フィルム (0.1mm): 7.0×45m 4本 サイドフィルム (0.1mm): 2.7×42m 4本 3年使用 寒冷紗 1.8×42m 8本 5年間使用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開花直前の時期(10月下旬~11月上旬)からハウス天井部のみを被覆して降雨を回避し、腐敗果の発生を軽減する。</li> <li>・開花期に天井部を被覆した場合に、ハウス側面を開放しても高温により結果率の低下が懸念される園地では、降温対策を併せて実施する。</li> <li>・寒害の恐れがなくなる3月上旬に天井ビニールを除去し、露地状態に戻す。</li> </ul>
	外フィルム巻上げ	3/上		2	5	10		
	寒冷紗被覆・除去	8/上 9/中		2	5	10		
温度管理	保温換気	11/中 ~ 2/下	谷、サイド換気装置	1	14	14		<ul style="list-style-type: none"> <li>・夜間は0℃以上の温度管理を行う。特に、降雪時は必ず暖房して融雪を促す。</li> <li>・晴天日は谷やサイドを開けて20℃以上にならないようにする。</li> </ul>
計						400		



3-4. 技術体系(露地びわ「なつたより」)

(10a当たり人、時間)

作業の種類	栽培技術		作業体系				使用資材	技術の重要事項
	技術内容	作業時間	使用機械器具	組み作業人員	実作業時間	延べ作業時間		
間伐 せん定	間伐 整枝 せん定 枝誘引	6/中 ~ 下 9/中	トラック	1	20	20		<ul style="list-style-type: none"> <li>・密植園では収穫直後に間伐する。</li> <li>・二段盃状形に改造する場合は、20年生以下で樹勢の良い樹を3~4年かけて行う。</li> <li>・9月の芽かきは、必要に応じて行う。</li> </ul>
土壌改良	堆肥、 土壌改良資材 施用	7/中	小型運 搬車 トラック	2	5.5	11	堆肥 2t 苦土入りカキ ガラ石灰 100kg	<ul style="list-style-type: none"> <li>・石灰質資材は土壌pH5.5~6.5を目標に施用する。</li> <li>・石灰質資材と肥料の施用間隔は2週間以上あける。</li> <li>・2~3年に1回を目標に樹間を部分的に軽く中耕する。</li> </ul>
草生管理	草刈り	4月 6月 9月	刈払機	1	6	6	わら 1ロール	<ul style="list-style-type: none"> <li>・除草剤の使用は夏草雑草発生期にとどめ、雑草草生による地力向上に努める。</li> <li>・使用薬剤、使用方法は県雑草防除基準による。</li> </ul>
	除草剤 散布	7月	動噴	2	2	4	除草剤	
施肥	基肥	8/中	小型運 搬車	1	6	6	配合肥料 (N:10%)220kg	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施肥量は、土壌の種類、樹勢、収量等によって調整する。</li> <li>・施肥後、乾燥している場合はかん水する。</li> <li>・年間の窒素施肥割合 基肥 50% 寒肥 20% 礼肥 30%</li> </ul>
	寒肥	10/下						
	礼肥	6/上						
防除	薬剤散布	1~12月	動噴	2	12	24	1回の散布量 300~500L	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病虫害発生予察情報に注意し、適期防除に努める。</li> <li>・特に、開花期~落弁期の防除を徹底し、果実腐敗対策に取り組む。</li> <li>・農薬の安全使用基準を徹底する。</li> </ul>
摘房 摘らい	摘房	10/上		1	20	20		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「なつたより」は着房率70%とする。</li> <li>・摘房は、寒害のない地帯は秋主体に、寒害のおそれがある地帯では春主体に行う。</li> <li>・開花が早く寒害が心配な場合は、花房を多めに残す。</li> <li>・出らいの早い花房は寒害対策のため花房進度2~3の頃に上部1/2摘らいを実施する。</li> <li>・その他花房は、花房の下5段程度を除去し、中央部~上部に着果させた方が袋かけしやすい。</li> </ul>
	摘らい	10/下						

3-4. 技術体系(露地びわ「なつたより」)

(10a当たり人、時間)

作業の種類	栽培技術		作業体系				使用資材	技術の重要事項
	技術内容	作業時間	使用機械器具	組み作業人員	実作業時間	延べ作業時間		
摘果袋かけ	摘果袋かけ	3/上 ~ 3/中		1	100	100	果実袋 10,000枚	<ul style="list-style-type: none"> <li>・寒波の襲来がなくなり、凍死果の判断がつくようになったら摘果して袋をかける。</li> <li>・1房当り3果に摘果し、3L以上の大玉生産を目指す。</li> <li>・袋かけ前に必ず炭そ病、灰斑病対策の薬剤散布を行う。</li> </ul>
収穫出荷	収穫選別箱詰め出荷	5/上 ~ 5/下	トラック 運搬車 重量選別機	2	41	82	収穫用かご コンテナ  ※出荷調整は 共同選果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「茂木」より果皮が黄色っぽく酸切れが早いので、色合いを見ながら試食して収穫適期を判断する。適期を過ぎると、そばかすや裂果を生じやすい。</li> <li>・果肉がやわらかく傷みやすいので、収穫、運搬、選別時に衝撃を与えず、積み重ねないよう取り扱いに注意する。</li> </ul>
新梢管理	芽かき誘引	6/中 ~ 下  7/中 ~ 8/上  9/中 ~ 下		1	35	35		<ul style="list-style-type: none"> <li>・誘引した後に充実した果こん枝を2本残して芽かきをする。</li> <li>・基本的に中心枝、果こん枝のみとし、副梢は除去する。</li> <li>・がんしゅ病予防のため新梢の長さが10cmの時にハサミで除去する。</li> </ul>
その他	作業道排水溝防風垣風対策他	1~ 12月		1	10	10		
計						318		

3-5. 技術体系(露地びわ)

(10a当たり人、時間)

作業の種類	栽培技術		作業体系				使用資材	技術の重要事項
	技術内容	作業時間	使用機械器具	組み作業人員	実作業時間	延べ作業時間		
間伐 せん定	間伐 整枝 せん定 枝誘引	6/中 ~下 9/中	トラック	1	20	20		<ul style="list-style-type: none"> <li>・密植園では収穫直後に間伐する。</li> <li>・二段盃状形に改造する場合は、20年生以下で樹勢の良い樹を3~4年かけて行う。</li> <li>・9月の芽かきは、必要に応じて行う。</li> </ul>
土壌改良	堆肥、 土壌改良資材 施用	7/中	小型運搬車 トラック	2	5.5	11	堆肥 2t 苦土入りカキ ガラ石灰 100kg	<ul style="list-style-type: none"> <li>・石灰質資材は土壌pH5.5~6.5を目標に施用する。</li> <li>・石灰質資材と肥料の施用間隔は2週間以上あける。</li> <li>・2~3年に1回を目標に樹間を部分的に軽く中耕する。</li> </ul>
草生管理	草刈り	4月 6月 9月	刈払機	1	6	6	わら 1ロール	<ul style="list-style-type: none"> <li>・除草剤の使用は夏草雑草発生期にとどめ、雑草草生による地力向上に努める。</li> <li>・使用薬剤、使用方法は県雑草防除基準による。</li> </ul>
	除草剤 散布	7月	動噴	2	2	4	除草剤	
施肥	基肥 寒肥 礼肥	8/中 10/下 6/上	小型運搬車	1	6	6	配合肥料 (N:10%)220kg	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施肥量は、土壌の種類、樹勢、収量等によって調整する。</li> <li>・施肥後、乾燥している場合はかん水する。</li> <li>・年間の窒素施肥割合 基肥 50% 寒肥 20% 礼肥 30%</li> </ul>
防除	薬剤散布	1~12月	動噴	2	12	24	1回の散布量 300~500L	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病虫害発生予察情報に注意し、適期防除に努める。</li> <li>・特に、開花期~落弁期の防除を徹底し、果実腐敗対策に取り組む。</li> <li>・農薬の安全使用基準を徹底する。</li> </ul>
摘房 摘らい	摘房	10/中		1	20	20		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「茂木」は着房率70%とするが、樹勢に応じて調整する。</li> <li>・摘房は、寒害のない地帯は秋主体に、寒害のおそれがある地帯では春主体に行う。</li> <li>・摘らいは、花房の下3段くらいと上部を摘除し、中4段を残す。</li> </ul>
	摘らい	11/上						

3-5. 技術体系(露地びわ)

(10a当たり人、時間)

作業の種類	栽培技術		作業体系				使用資材	技術の重要事項
	技術内容	作業時間	使用機械器具	組み作業人員	実作業時間	延べ作業時間		
摘果袋かけ	摘果袋かけ	3/中 ~ 3/下		1	100	100	果実袋 10,000枚	<ul style="list-style-type: none"> <li>・寒波の襲来がなくなり、凍死果の判断がつくようになったら摘果して袋をかける。</li> <li>・一房当りの果数の目安 3果/房</li> <li>・袋かけ前に必ず炭そ病、灰斑病対策の薬剤散布を行う。</li> </ul>
収穫出荷	収穫選別箱詰め出荷	5/中 ~ 6/上	トラック 運搬車 重量選別機	2	58.5	117	収穫用かご コンテナ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・熟期を見て、適期に収穫する。</li> <li>・果実が傷まないよう、毛じが落ちないように、取り扱いには細心の注意を払う。</li> <li>・箱には必ず満杯詰めとする。</li> </ul>
新梢管理	芽かき誘引	6/中 ~ 下 7/中 ~ 下		1	27	27		<ul style="list-style-type: none"> <li>・芽かきは、がんしゅ病予防のため新梢の長さが10cmの時にハサミで除去する。</li> <li>・基本的に中心枝、果こん枝のみとし、副梢は除去する。</li> <li>・こまめに新梢誘引を行い、花芽分化を促す。</li> </ul>
その他	作業道排水溝防風垣風対策他	1~ 12月		1	10	10		
計						345		

3-6. 技術体系(早生温州):かんきつ専業Ⅰに準ずる。(476~477ページ参照)

※ただし防除および収穫出荷の項は、かんきつ専業Ⅱを参照

3-7. 技術体系(不知火):かんきつ専業Ⅰに準ずる。(482~483ページ参照)

※ただし防除および収穫出荷の項は、かんきつ専業Ⅱを参照

4. 品目の作付体系

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
ハウスびわ (一般出荷型)	↑ 摘果	↑ 袋かけ	■◆	■◆	↑ せん定・施肥	↑ 芽かき	U	↑ 施肥	◎↑	※ 摘房摘蕾 追肥	∩ ※	⇒
ハウスびわ 「はるたより」	↑ 摘果	↑ 袋かけ		■◆◆	◆↑ せん定・施肥	↑ 芽かき	U	↑ 施肥	◎↑	※ 摘房摘蕾 追肥	∩ ※	⇒
簡易ハウスびわ 「なつたより」 (無加温)		↑ 摘果	U 袋かけ	■◆◆◆↑	せん定・ 施肥		↑ 土壌改良 芽かき	施肥	◎↑	※ 摘房摘蕾 施肥	∩ ※	
びわ「なつたより」 (露地)		↑	↑ 摘果 袋かけ		■◆◆◆	↑ せん定・施肥	↑ 土壌改良 芽かき	施肥	◎↑	※ 摘房摘蕾 施肥		※
びわ (露地)		↑	↑ 摘果 袋かけ		■◆◆◆↑	せん定・施肥	↑ 土壌改良 芽かき	施肥	◎↑	※ 摘房摘蕾 施肥		※
早生温州 (マルチ)	土壌改良	せん定	春肥	↑ 草刈	※ ↓ 夏肥	↓		マルチ被覆 摘果		☆		■◆◆◆ 秋肥
不知火 (露地)	■	◆■ 土壌改良	◆ せん定 春肥	↑ 草刈	※ ↓	↓ 摘果			枝つり	☆		

注) 生育ステージ記号 ↑:発芽 ◎:出蕾 ※:開花 ↓:生理落果 ☆:着色始め ■:収穫 ◆:出荷

∩ U:ビニール被覆・除去 ⇒:加温開始

5. 作業別・旬別労働時間(10a当たり時間)

1)ハウスむわ(一般型)

品目・作業/月・旬	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
111													
間伐せん定					10								30
土壌改良					20								11
草生管理		2					4						10
施肥				2					2				6
防除	2			2	2	3	2	3	2	2			31
摘房、摘らい										10	10		30
摘果袋かけ	30	40	20										176
収穫出荷				40	50	56							120
芽かき誘引				6	5	4	3	3	3	3			35
摘果、除去				3	3		10	6	4		48	16	90
温度管理	2	2	3	3							2	2	42
水管理	1	1	1	1	2	1							18
その他						2	2	2	2				16
計	35	43	33	23	4	4	6	34	52	62	14	26	615
月計	111	31	44	170	45	22	41	13	18	26	83	11	615

2)ハウスむわ「はるたより」

品目・作業/月・旬	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
111													
間伐せん定					10								30
土壌改良					20								11
草生管理		2					4						10
施肥				2					2				6
防除	2			2	2	3	2	3	2	2			31
摘房、摘らい										10	10		30
摘果袋かけ	30	40	20										176
収穫出荷				6	5	4	3	3	3				35
芽かき誘引				3	3		10	6	4		48	16	90
摘果、除去	2	2	3	3							2	2	42
温度管理	1	1	1	1	2	1							18
水管理					2	2	2	2	2				16
その他													0
計	35	43	33	23	4	4	6	34	52	62	14	26	615
月計	111	31	44	170	45	22	41	13	18	26	83	11	615

3)簡易ハウス「なつたより」

品目・作業/月・旬	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
111													
間伐せん定					10								20
土壌改良					20								11
草生管理		2					11						10
施肥				2					2				6
防除	2			2	3	2	2	2	2	3	2		24
摘房、摘らい										10	10		20
摘果袋かけ				50	50	25							100
収穫出荷				7	7	5	9	8	4				82
芽かき誘引				3	3		10	6	4		48		68
摘果、除去	1	2	2	1	1						1	1	14
温度管理	2	2											10
その他													0
計	4	4	4	2	7	5	19	10	31	22	13	7	140
月計	9	56	60	11	75	34	38	10	22	26	54	5	400

4) 露地はね「なつたより」

品目・作業/月・旬	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
開栓せん定						10							20
土壌改良							11						11
草生管理				2		2			2				10
施肥						2		2					6
防除		2		2		3	2	2	2	3	2	2	24
摘草・摘らい										10			20
摘草袋かけ			50										100
収穫出荷					7	60	15						82
芽かき誘引		2					1	1	1	1			10
その他													0
計	0	2	50	2	7	60	15	5	4	11	0	15	2
月計	4	2	100	4	82	24	40	12	18	26	4	2	318

5) 露地はね

品目・作業/月・旬	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
開栓せん定													20
土壌改良						10							11
草生管理				2		2			2				10
施肥						2		2					6
防除			2			3	2	2	2	3	2	2	24
摘草・摘らい										10			20
摘草袋かけ			50										100
収穫出荷					10	40	67						117
芽かき誘引		2					9	8					27
その他													10
計	0	2	50	2	10	40	72	13	4	10	5	12	345
月計	4	2	100	4	50	101	38	4	10	16	14	2	345

6) 早生温州(動燻利用)

品目・作業/月・旬	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
開栓せん定		2	3										16
土壌改良	4												7
草生管理				2		2			1				8
マルチ管理					6		0.5						7.5
施肥			1										3
防除				2	2	4	4	4	4	2			34
摘草								5		5			40
収穫出荷				2	2					6	21	32	70
その他													15
計	0	2	4	6	4	6	9	12	5	5	8	32	200.5
月計	4	11	13	9	15	22	13.5	20	12	13	66	2	200.5

7) 不知火(動産利用)

品目・作業/月・旬	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
田舎せん定		2	3										15
土庫改良		3	3										9
草生管理				2		2	2		2				10
施肥			3										3
防除		2		2	2	4	4	2	4		2	2	32
播草						10	5	5	4				49
接つり										2			6
双環出荷	11.5	34.5	11.5	6	4.5								74
貯蔵	1	1											6
新株管理				2	1	1							4
その他			2	2	2	2	2	2	2				15
計	0	12.5	36.5	14.5	12	18	13.5	4	2	6	2	2	0
月計	49	44.5	19.5	11	9	32	15	21	16	2	2	2	223

6. 総労働時間

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
総労働時間	106	195	285	159	79	167	300	364	254	190	152	155	207
うち常務労働	106	148.3	148.3	159	79	160	177.7	177.7	177.7	171.7	171.7	171.7	171.7
うち雇員労働	0	46.7	136.7	0	0	7	122.3	186.3	76.3	18.3	0	0	136
計	106	244.7	425	159	79	167	422.3	550.3	330.3	190	152	155	343.7
うち常務労働	106	194.3	286.6	159	79	160	300	364	254	190	152	155	207
うち雇員労働	0	50.4	138.4	0	0	7	122.3	186.3	76.3	0	0	0	136
計	106	244.7	425	159	79	167	422.3	550.3	330.3	190	152	155	343.7